

医療経営者のための経営情報誌

ハートフル・メディカル旬報

岡税務労務会計事務所

TEL 092-851-3689

FAX 092-851-7403

医療経営者のための経営学

利益が目的でなく利益を何に使うかが大切 近森 正幸（医療法人近森会理事長）

1. 病院は利益を出すのが目的ではなく、利益を何に使うかが大切です。建物や医療機器の整備、医療の安全対策や質の向上などに使い、患者さんに安心感と満足感を与える。一方で、教育研修を充実させたり、働きやすいシステムを導入するなどして職員にも満足してもらおう。そういう利益の使い方をして初めて、病院を経営する意味が出てくる。
2. 日本の病院は 20 年位先に大きな転換期を迎えます。団塊の世代が高齢になり、人口が減少して、患者数も激減します。東京、大阪、名古屋の三大都市圏に多数住んでいますから、その地域の医療機関はこれから 15 年間ほどは黄金時代を迎えます。しかし、その後、一気に患者数が減りはじめ、医療機関の競争は激化します。
3. 今、大学、高校、予備校などが少子化で大変なサバイバル競争に突入しています。それと同じ状況が 20 年後に医療機関にも訪れるのではないのでしょうか。そうなったとき、我々の世代の経営手法は恐らくもう通用しないと思います。ちょうど父の世代の経営手法が、80 年代後半から通用しなくなったのと同じ現象が起こると思います。
(参考:「日経ヘルスケア 21」2005 年 6 月号)

行政からの情報

有床診療所が減少

1. 厚生労働省の医療施設調査・病院報告によると、有床と無床を合わせた一般診療所は、2003 年 10 月 1 日現在で、96050 施設。前年に比べ 1231 施設（1.3%）増加、1988 年以降増加を続けている。
2. しかし、有床診療所は 1996 年 20452 施設から 2003 年 15371 施設と 24.8%も減少した。2003 年度だけでも、有床診療所が入院ベットを廃止して無床診療所に転換したのが 731 施設もあった。無床診療所は 2003 年 80679 施設と 7 年間で 19.6%も増加した。
(2003 年 10 月 1 日 現在)

医療経営者のための危機管理

医療事故の届け出 3 年連続で過去最高を更新

1. 医療機関や被害者側が医療事故を全国の警察に届け出た件数は、2004 年の 1 年間で計 255 件だったことが、5 月 24 日に公表された警察庁のまとめでわかった。前年に比べ 5 件増加しており、3 年連続で過去最高を更新した。
2. 昨年中の届け出を、届けた人や機関別に見ると、医師や看護師、院長などの「病院関係者等」からが 199 件。次いで被害者、遺族、弁護士ら「被害関係者等」が 43 件、「その他」13 件の順だった。
3. 2004 年の届け出総数 255 件のうち、事件性が高く、警察が立件送致した件数は 10 件、全体の 3.9%だった。一般的に、医療事故に関しては、捜査が難しくて、警察が逮捕、立件するまでには時間がかかるとされており、立件送致の件数はさらに増えるとみられる。

(参考:「日経ヘルスケア 21」2005 年 6 月号)

古典に学ぶ

辞退するのものとらわれている証拠

「男子多ければ則ち懼れ多し。富めば則ち事多し。寿^{いのちなが}ければ則ち辱^はじ多し」

(訳) 現代でもそうかもしれないが、むかしから中国人は、人生の幸せは福、禄、寿の三つにあると考えてきた。福とは子孫に恵まれること、禄とはお金、寿とは長寿である。「男子が多いと、心配ごとばかりふえる。金持ちになると、面倒なことばかりふえる。長生きすれば、辱じをかくことばかり多くなる。」こう言って堯^{ぎょう}は、「この三者は徳を養う所以^{ゆえん}にあらざるなり、故に辞す」とつけ加えた。だが、荘子に言わせると、これでもまだ「天機浅し」ということになるらしい。なぜなら、辞退するというのは、まだそれにとらわれているからである。

(参考:守屋洋「老子・荘子」): P H P 研究所